

会議結果報告書

令和5年9月12日

会議の名称	令和5年度 第1回いろは遊学館等運営審議会
開催日時	令和5年7月21日（金）14時00分～15時15分
開催場所	いろは遊学館 3階ホール
出席委員	石井 都委員 小林コト子委員 高橋 貫委員 青木りえ委員 石川敦久委員 堀川幸枝委員 野口敏明委員 前田長子委員 木村幸子委員 中内彩瞳委員 中川定幸委員 西浦建貴委員 抜井俊委員 (計13人)
欠席委員	細田和子委員 神山富士子委員
出席者職氏名	(いろは遊学館) 土岐館長 浅見主任 (宗岡公民館) 佐野館長 鈴木主任 (宗岡第二公民館) 長谷川館長代理 (計5人)
説明員職氏名	(いろは遊学館) 浅見主任・土岐館長 (宗岡公民館) 佐野館長 (宗岡第二公民館) 長谷川館長 (計4人)
議題	1 委嘱状交付式 2 教育長あいさつ 3 運営審議会委員紹介 4 議 事 (1) 令和4年度いろは遊学館、宗岡公民館及び宗岡第二公民館事業報告について (2) 令和4年度いろは遊学館、宗岡公民館及び宗岡第二公民館利用状況について (3) 令和5年度いろは遊学館、宗岡公民館及び宗岡第二公民館事業計画について 5 その他 図書館協議会委員及び人権教育推進協議会委員の選出
結果	報告事項 (1) (2) 令和4年度いろは遊学館、宗岡公民館及び宗岡第二公民館事業報告及び利用状況について、質疑応答 (3) 令和4年度いろは遊学館、宗岡公民館及び宗岡第二公民館事業計画について、質疑応答 その他 図書館協議会委員及び人権教育推進協議会委員の選出 輪番で決定 図書館協議会委員：総合福祉センター利用者の会選出委員 人権教育推進協議会委員：いろは遊学館利用者の会選出委員 (傍聴者 0人)

審議内容の記録（審議経過、結論等）

- 1 委嘱状交付式
- 2 教育長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長選出
西浦建貴会長
- 5 開会
- 6 議事
報告事項

（1）令和4年度事業報告

（いろは遊学館）

いろは遊学館は、「地域の人づくり」の一環として、新たな情報の発信と、市民が学んだ成果を発表・還元できる場を提供し、人と人とを結び、交流できる環境づくりを推進した。

事業を学社融合事業、高齢者事業、ICT学習支援事業、一般成人事業など7つの区分に分け、35事業の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、1講座を中止した。令和4年度34事業の延べ参加人数は、8,303人である。

続いて、主な事業内容について、学社融合事業「第20回いろはふれあい祭り」は、10月14・15・16日に実施した。令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症大防止のため中止しており、3年ぶりの開催となった。開催に向けて、いろはふれあい祭り運営委員会で新型コロナウイルス感染症対策等について検討を重ね感染対策として対象の「どなたでも」を「市民」としたが、お祭りに参加されるサークル団体の方、また、発表を見に来られるご家族等は市外でも可能とした。開催日時についても、3日間だが、時間等を短縮し、開会式は一般公開せず、志木小学校児童、志木小学校PTA、利用者の会のみでの参加とした。お祭りに参加される全ての方に入場で入場券を提出いただき、検温、手指消毒をしてもらった。また、図書館のみの利用者にも、おまつり期間については、検温等にご協力いただいた。館内の同時入場者数の上限が1,000人を超えないよう、各部屋で定員管理も行い、整理券を配布するなどの対応をした。開会式は、志木小学校の体育館で行い、6年生児童が参加し、他学年については、開会式の様子を体育館から配信し、開会式の様子を視聴する形で参加してもらった。いろはふれあい祭り運営委員長と志木小学校代表委員で開会宣言を行い、教員と児童有志による音楽発表で始まり、展示、体験・あそびは、主にいろは遊学館3階が会場となった。密をさけるために、進行方向を一方通行で進めるよう工夫し、合唱や演奏のステージ発表は、志木小学校の広い体育館で行い、発表者と観客と距離をとり、椅子等も観客が席をたつたびに消毒等を実施した。これらの対策を講じてお祭りは、成功裏に終わった。

次に「いのちを学ぶ人権講座」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、全校児童を対象とするものではなく、6年生を対象とし、体育館でソーシャルディスタンスをとり、講演会を行った。リオデジャネイロパラリンピック及び、東京パラリンピックにてダンスパフォーマンスを披露した、車いすダンサーの神原健太（かんばら けんた）さんを講師に迎え、「全ての人の可能性と、それを支える周囲の人たちの大切さ」、「みんなちがうから、それがいい」ということを学んだ。また、今回の「いのちの授業」の内容は、同じ中学校区の学校である、志木第三小学校と志木中学

校でも視聴できるよう DVD を作成し、学校に渡した。

高齢者事業「いろは大学」は、78 人が受講した。令和 3 年度と同様に新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、受講生を 2 つのグループ分け、第 2・第 4 水曜日に各グループ 1 回ずつ開催した。両方のグループが、同じ内容の講座を受講できるようにした。【コミュニケーション講座】では、コミュニケーション術を学び、ロールプレイングで実践して、班の方々と交流を深めていた。【防災講座】では、自助・共助・公助、防災の三原則(知識、装備、技術)、日頃からの取り組みについて学んだ。また、身近な物で簡単に作れるランタンなどの作り方を学んだ。皆さん改めて、日々の備えの大切さを再確認している。受講生が主体となって行う自主事業は、「市長講話」「和太鼓鑑賞会」、「班別対抗レクリエーション大会」「忘年会」を開催した。

「ICT 学習支援事業」は、令和 4 年度より、主に高齢者を対象にデジタル・ディバイド(情報格差)の解消や ICT リテラシー (ICT を正しく適切に利用・活用できる力)の向上を目的に実施した。「スマホのい・ろ・は教室」、「志木市スマホ体験教室」ともに、「これからスマホをはじめたい」「持ったばかりで使い方が良くわからない」「持っているがあまり使い方がわからない」という方でも、ゆっくり時間をかけて学べる講座となっており、先生やアシスタントの方が丁寧に教えてくださった。また、便利な機能等も学んだ。

「一般成人事業」は、「季節の料理教室」、「初心者向けストレッチ&ピラティス教室」、「おひとり様音楽会」、「アロマセラピー講座」、「きらめき発見委員会」「初心者向けヨガ教室」を開催した。

「おひとり様音楽会」は、ひとりもしくは、2 人組による学習成果の発表会で、今回は会場の定員を半分として、検温、手指消毒、1 曲終わるごとに換気等を行うなど感染対策を行い実施しました。今年で 4 回目となり、毎回定員を超える演奏者の応募があり大変人気の講座で、サクソ、フルート、篠笛、ギター、ピアノ、歌唱などの発表をした。「アロマセラピー講座」は、「秋の健康対策～ケアの大切さ～」についてハンドトリートメントの効果を学び、マッサージオイルの制作、ハンドトリートメントを行った。リフレッシュできた講座であった。

家庭教育支援事業の「応援しよう赤ちゃんファミリー」、「ママ・サプリ」、「ちいさなクリスマス会」は、人数を制限した事前申込とし、感染症対策を行い開催した。「ママ・サプリ」は、保育つき講座で、子どもと離れて、「子育ての悩み」、「ほっとしながらできる子育て」について全 4 回講座で学んだ。日々の子育てについてワークシートを使用し、他のママ達や講師と意見を交換しながら解決策を見出し、講座後には、「心が穏やかになり笑顔で子どもを迎えに行くことが出来た」「心のケアができた」との感想があった。「ちいさなクリスマス会」は、15 組を事前申し込みとし、読み聞かせ、ハンドベル演奏、パネルシアター、手作り楽器遊びなどで楽しんだ。

青少年事業は、「サタデーフレンズ 2022」、「手作りピザ教室」、「夏休み食品サンプル作り教室」、「冬休み子ども教室」を実施し、どの講座も、大変好評であった。

「サタデーフレンズ 2022」は全 23 回を実施し、夏休み食品サンプル教室はクリームソーダ、パフェを作り、冬休み子ども教室では、しめ縄で干支の「うさぎ」を作った。

サークル支援共催事業については、2 年間、新型コロナウイルス感染症による制限で学習成果の発表の場がなかったこともあり、令和 4 年度は、多くの団体より共催事業の申し込みがあった。「いろは SDGs の集い」は、「よりよい社会にするために、できることから実践しよう！」をテーマに講演会や事例発表が行われた。「季節の音楽館」は、合唱、ウクレレ演奏、ギター演奏など 4 団体が感染対策を講じながら発表した。「見て！聞いて！体験！日本舞踊講座」は、化粧、早着替え、カプルや市長、会場の皆さんと志木市歌に合わせて踊った。「大人のための朗読会」は、誰もが参加できるよう手話通

訳の方に来ていただき、詩やエッセイ等の朗読を行った。参加者は、目を閉じて想像しながら聞いている方が多かった。「大人の陶芸教室」は、サークル団体が高齢であり、指導するのに密になってしまうため中止となった。

(宗岡公民館)

令和4年度 宗岡公民館事業について報告する。

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、引続き、参加人数の抑制や検温、手指消毒などに努めながら、事業を実施した。

まず、高齢者事業の「あけぼの大学」は、60歳以上の方を対象に、4月～3月までの1年間に渡り、教養・趣味・健康に関する講座を実施した。新型コロナウイルス感染防止のため、2回に分けて実施した。

内容は、開講式、教養講座「お口の健康講話」、健康講座では、「カーレット」の体験をした。人権講座「シニア期を個性豊かにイキイキと」は、昨年を引き続き、第2として実施した。教養講座「郷土史入門講座」宗岡の寺社とお祭りについて学んだ。健康講座「ころばん塾」転ばないような体力づくりでは、足腰の体操を中心に実施した。趣味講座「ちぎり絵」は、色のついた和紙をちぎって貼るもので、年賀状の作成をした。教養講座は、「こだわり手作り味噌」、講座の最後は、教養講座で、香川志木市長の講話を実施し、市長と一緒に記念撮影も行った。

修了式を含み、全部で、16回の開催で、参加人数は、延べ374人であった。

次に、ICT学習支援事業「初心者のためのパソコン個別指導」を予定していたが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、ITボランティアの方々と、話し合いをした結果、中止とした。

「志木市スマホ体験教室」と「スマホのい・ろ・は教室」は、スマートフォンの基本的な操作について学ぶ講座で、「志木市スマホ体験教室」は、市のデジタル推進課と「スマホのい・ろ・は教室」は、いろは遊学館と連携した事業である。

一般成人事業は、和紙をちぎって貼る「ちぎり絵」の講座を実施し、うちわにあさがおの絵の飾りつけをした。「苔玉講座」は、土のたまの周りに苔を張り、季節の植物を植えるもので、素晴らしいものが出来上がり、参加された方、皆さんから好評であった。「ペン習字」は、手書きで美しい文字を書くための基礎を学び、年賀状を書く練習をし、講師から、個々にアドバイスをいただいた。「ダンスエクササイズ」は、音楽に合わせて体を動かすことで、健康とストレス発散をしていただくもので、久しぶりに体を動かし、楽しい時間だったと、好評であった。

家庭教育支援事業の「おやこ広場」は、1歳から3歳未満の子どもと親を対象として、親子で、「リフレッシュ体操」や「えのぐあそび」など、前期、後期とも、同じ内容で5回ずつ、また、12月には、クリスマス会を実施した。

青少年事業は、主に小学生を対象に実施している事業で、「科学あそび」、「子ども映画会」、「楽しくクッキング」を実施した。

「科学あそび」は、7月に「金属ってもえる？」を題材に、鉄や銅、アルミニウムなどが燃えるかどうか実験したあと、線香花火を作成した。

12月には、「化石」を題材に、いろいろな化石を見たあとに、石こうで、アンモナイトのレプリカを作成した。「楽しくクッキング」は、8月に「動物パン・フルーツ蒸しパン」作り、12月はクリスマスに合わせて、「ケーキ」作った。

この事業は、宗岡公民館のサークルにお手伝いをしていただき実施している。

「子ども映画会」は、学校の夏休み、春休みの期間に、それぞれ1回ずつ実施した。16ミリ映写機を使用するので、参加された子供たちは、映写機にも興味をもっていた。

図書関連事業のよみきかせは、よみきかせボランティアの方々のご協力をいただいて、実施している絵本の「よみきかせ」のほか、「おやこでびよん絵本であそぼう」は、より多くの方によみきかせに参加してもらうため、読み手を男性にして、ファミ

リーで楽しめる場を提供しようという事業である。「赤ちゃん絵本のふれあい」は、市のブックスタートのフォローアップ事業となっている。

また、「よみきかせお楽しみ会」は、絵本のよみきかせのほか、紙しばいやパネルシアターなどを楽しんでいただくもので、7月、12月、3月の3回実施した。

どのよみきかせ事業も、ボランティアの方の親しみやすい対応で、絵本とふれあう場として、また、親子連れの交流の場として好評であった。

サークル支援共催事業では、サークルの日頃の成果発表や地域との交流を深める事業として実施をしている。「みんなで楽しむカーレット」は、志木カーレットクラブが講師となり、カーレットのルールを教えていただき、カーレット競技を楽しんだ。「人形劇」は、人形劇団「あかおに」の講演を、10月に実施した。

「フリーマーケット」は10月に実施を予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、開催を見送ることとした。

(宗岡第二公民館)

宗岡第二公民館では、事業を高齢者事業・一般成人事業・図書室関連事業など10の区分に分け、31事業を計画し、26事業を実施した。新型コロナウイルス感染状況や感染対策を踏まえ、関係団体などと相談し、実施が難しいと判断した5事業を中止とした。

実施した事業の延べ参加者数は、2,866人で、前年度比1,283人の増である。

はじめに高齢者事業の「寿大学」は、60歳以上の方が教養・健康・趣味など幅広い内容を学ぶとともに、受講生相互の交流を図る通年の講座である。年間19回にわたり、野菜ソムリエによる食育講座、シューフィッターによる足の健康講座、温泉ソムリエによる入浴講座、レクリエーションやものづくり講座などを実施した。

平均年齢は75歳を超えているが、令和4年度は38人の参加者であり、毎回楽しみに参加いただいている事業である。

令和4年度の新規事業であるICT学習支援事業は、いろは遊学館と共催の「スマホのい・ろ・は教室」は、主に高齢者を対象に行った。志木市スマホ体験教室は、市デジタル推進課と連携した一般市民向けのスマホ講座である。いずれの講座も問い合わせや申し込みが多く、申し込みは募集定員の1.5倍近くであった。受講いただけなかった人もいるため、今後も継続して実施する計画としている。

「一般成人事業」は、生活や趣味に関わる内容を学ぶ事業である。パーソナルカラー講座は、16人の定員に対し、3倍近くの申し込みがあった。参加者の中には、聴覚障がい者の方もいたので、手話通訳付の講座とした。普通救命講習会は、17人の参加があり、コロナ禍の留意点などを加えた内容とした。ろっ骨エクササイズカキラ体験教室は、宗岡第二公民館で活動しているサークルの講師にお願いして実施し、12人の参加があった。講座の前後で体のゆがみの解消が実感できる内容で、講座後からサークルに参加された方もいると聞いている。その他にも、「麺'sクラブ」は、昨年度3回実施して、延べ27人が参加した。今年度も引き続き講座に取り組んでおり、現在はサークル化して活動していくことを準備している。

家庭教育子育て支援事業の「おもちゃクリニック」は毎月第一土曜日に開催している。毎回多くの壊れたおもちゃを持ち込まれ、ボランティアが修理する事業で、また使えるようになった、動くようになったおもちゃを持ち帰る際には、子どもだけでなく、親御さんからも喜ばれている。令和4年度までは会場で修理の受付だけ行い、ボランティアが持ち帰って修理し、後日返却する方法をとっていたが、令和5年度に入り、おもちゃを直している様子を見ていただくことや、直したおもちゃをボランティアから子どもに手渡すといったことができるようになった。夏休みお天気教室は、夏休み入ってすぐの日程で、気象予報士を講師に招き、実験を通じて雲について学んだほか、天気に関する自由研究のテーマや進め方なども紹介した。キッズチャレンジ「油絵教

室」では、県立志木高等学校の美術部の皆さんに講師をお願いし、夏をテーマに野菜やヒマワリなどを油絵で描いた。旬を食べよう料理教室では、パンプキンシチューパン、モンブランを作った。パンプキンシチューとパン、ロールケーキ状のモンブランを会場でみんなで作り、家に持ち帰ってからパンにパンプキンシチューを入れて完成するもので、参加した児童が帰宅後、家で料理を完成させた様子や試食の様子を保護者から画像をいただき、フェイスブックにアップした。書初め練習会は、毎年人気のある講座で、定員を超える応募があるため、令和4年度は会場をホールにして定員を増やした。はじめてのよみきかせ講座は、令和3年度によみきかせボランティア団体が解散してしまったことを受け、今後活動していただけるボランティアの養成を目的に実施し、延べ20人の参加があった。8月には、よみきかせボランティア「えほんとなかよし」を立ち上げ、9月から0～2歳を対象とした月2～3回のよみきかせ活動を開始した。昭和を懐かしむ映画会は、図書室で所蔵している上映権付DVDを活用した映画会で、「憧れのハワイ航路」「銀座カンカン娘」を上映した。参加者の中には、100歳以上の人や視覚障がい者の参加もあった。コロナ禍で中止していた移動図書室は、現在宗岡地区の放課後志木っ子タイムと再開を検討している。よみきかせ訪問についても、えほんとなかよしの皆さんと相談しながら、ボランティア発足の案内と併せ、学校等にPRしていきたいと考えている。

地域福祉事業は、3講座とも、障害者手帳保有者が対象である地域活動支援センターと、広い対象者の公民館が共催することにより、障がいの有無に関わらず参加できる事業であり、障がいのある人をはじめ、そのご家族、障がい者を支援している人、障害者手帳を持っていないが支援が必要な人など、さまざまな人が参加されている。

写真教室は、車椅子を利用する人、聴覚障がい者、視覚障がい者など、さまざまな人が参加しており、撮影した写真は、後日パソコンで加工作業も行った。

総合福祉センターまつりの開催は、4年ぶりとなった。模擬店や物品販売はできなかったが、3月4日と5日の2日間、ステージ発表や活動の動画上映を始め、高齢者や公民館サークルの作品展示、さまざまな体験があり、来場者は937人であった。

(2) 令和4年度利用状況

(いろは遊学館 利用状況)

令和4年度 いろは遊学館利用状況について、合計回数は5,609回、利用人数は56,002人、開館日数は307日であった。令和3年度の合計と比較すると、利用回数はほぼ増減なし、人数は約6%、3,000人の増加がみられた。利用人数が6%増加したのは、感染対策を講じていろはふれあい祭りを実施したことによるものと思われる。次に、令和4年度の11月から3月までの利用回数・人数が他の月より減少しているのは、11月からは空調工事のためホール、多目的室、第1音楽室、児童室のお部屋が、貸し出せないこと等が影響しているものと思われる。

(宗岡公民館 利用状況)

回数は2,240回、利用人数は17,483人、開館日数は356日であった。

利用回数、利用人数とも、少しずつ、増加している。

(宗岡第二公民館 利用状況)

開館日数は、年末年始の6日間と定期清掃・停電を伴う電気点検等4日間を除き、355日開館した。利用回数は3,400回(前年度比478回増)、利用人数は、37,789人(前年度比10,908人増)となった。

コロナ禍前の令和元年度の実績と比較すると、利用回数は約500回上回っており、利用人数は10,751減(78%相当)となっている。

徐々にサークルなども増えてきているが、長年活動している団体からは、会員が減り募集しても会員が増えないとの相談を複数からいただいているため、団体の支援に

について検討している。

(3) 令和5年度事業計画

(いろは遊学館)

今年度は、34事業を予定している。

主な事業は、「第21回いろはふれあい祭り」は、10月13日から15日の3日間を予定している。また、学社融合事業として、さくら学級を対象に「食品サンプル教室」を実施する予定である。

高齢者事業「いろは大学」は、5月から開講し、昨年度までは、受講生を2つのグループに分けていたが、今年度からもとの形に戻して、80名全員が1度に受講できる体制で実施している。

ICT学習支援事業は、昨年度に引き続き、「スマホのいろは」を充実させて、初級編を2回、活用編を2回開催する。また、オンライン体験講座は、スマホのいろはの受講生の体験会を兼ねたオンラインの俳句講座を予定している。

一般成人事業は、昨年に引き続き、オンライン開催の事業の他、きらめき発見委員会を予定。これは、オンラインと対面の両方で行う予定で学生が企画・立案を行う事業である。

家庭教育事業は、昨年度と同様にママサプリや赤ちゃんファミリーを実施する予定である。青少年事業は、子ども料理教室などを予定している。

サークル支援・共催事業については、新たに日本画展を実施する予定で、また、コロナ禍で開催できなかった陶芸教室事業を子ども向け、大人向け両方で実施する予定である。

(宗岡公民館)

宗岡公民館の令和5年度事業計画について報告する。高齢者事業の「あけぼの大学」は、60歳以上の方を対象として、1年を通しての事業で4月から開講しており、52人の方に参加いただいている。

ICT学習支援事業は、ICTボランティアとICTサークルの方々のご協力を得て、「初心者のためのパソコン個別指導」を、月2回、定員2人ずつで、1年を通して実施する予定で、4月から今まで、ほぼ毎回、定員に達する状況になっている。

一般成人事業は、令和4年度にたいへん好評だった「苔玉講座」を6月に実施し、定員の12人が参加した。

また、9月に「食品サンプルのメモスタンド作り」の講座を予定している。その他にも、生活課題に根差した事業を実施する予定である。

家庭教育支援事業は1歳以上～3歳未満の子と親を対象とした「おやこ広場」を5月、6月に実施し、13組が参加した。同じ内容で、10月、11月にも実施する予定である。また、12月にクリスマス会を予定している。

青少年事業は、主に小学生を対象に、「科学あそび」、「楽しくクッキング」、「子ども映画会」を実施する予定である。「科学あそび」は、定員の28人の参加であった。空気を題材とした実験などを行った。また、12月にも実施する予定である。

また、「子ども映画会」は、7月29日と春休みの3月に「楽しくクッキング」は8月19日と12月に実施する予定である。

図書関連事業は、「絵本のよみきかせ」、「おやこでぴよーん絵本であそぼう」、「赤ちゃん絵本のふれあい」は、絵本とふれあう場として、1年を通して、実施している。

「お楽しみ会」は、夏、冬、春休みに、実施する予定である。

サークル支援共催事業は、「宗岡公民館まつり」を4月15日に4年ぶりに開催し、サークルの発表や作品展示、宗岡公民館友の会のサークルによる、卓球やカーレット

のほか、メンコやお手玉などのむかし遊びの体験などを実施し、あいにくの雨天だったが、たいへん多くの方にご来館いただいた。

また、「宗岡公民館フリーマーケット」を主事業を予定している。

(宗岡第二公民館)

宗岡第二公民館は、令和5年度、27事業を計画している。利用条件が緩和に進んでいるため、内容に応じて適切な感染症対策を行い、実施する。令和4年度との変更点を中心に報告する。

ヨガ体験教室は、現役世代をターゲットに平日の夜間に実施している。また、仕事帰りでも参加できるように、着替えができる部屋も確保し、本日3回目を迎え一区切りとなり、今後サークル化して活動を継続するかどうか、参加者に伺っていく予定である。麵'sクラブも昨年度からの企画がここで一区切りするので、今後サークル化して活動を継続するかどうか、参加者に伺ったところ、「サークル化して活動したい」という声が複数上がったことからサークル化に向けた準備を進めている。

ろっ骨エクササイズカキラ体験教室は、今年度は保育付きでの実施を考えている。また、将来的にサークル化することも視野に相談に乗っていきたいと考えている。暮らしに役立つお金の知識講座は、今後講師と詰めていく予定だが、オンライン講座で実施できたらと考えている。

福祉映画会は、認知症を題材にしたドキュメンタリーで、認知症の人を地域で支えることを考えるための映画として準備している。

自習スペース開放事業は、定期試験に合わせ、土日祝日の日中に自習スペースとして空き会議室を開放する事業であり、宗岡第二公民館では、日常的にフリースペースで自習することが可能だが、より集中できる環境を整備できたらと考えている。

読書ビンゴは、子ども読書週間にいろいろなジャンルの本を読むきっかけを作るものとして、16マスに書かれたジャンルの本を読むことでビンゴを目指す事業である。本のお楽しみ福袋は、1月に小学生を主対象に、楽しみながら図書室を利用してもらえよう企画しているもので、この2事業は、第3次志木市子ども読書活動推進計画にある「読書意欲の促進」のための事業と位置付けている。

その他、事業計画に記載のないものとして、宗岡第二公民館図書室では、赤ちゃん連れでも気兼ねなく図書室が利用できるよう「赤ちゃんタイム」を設け、一般の利用者にも理解を求め、より利用しやすい図書室運営を目指している。

最後に、地域ふれあい事業、総合福祉センターまつりは、大きなイベントとなるため、関係者を集めた実行委員会を組織し、感染状況や利用条件などを勘案し、内容を検討し、実施する予定である。

質疑応答

Q 高齢者団体の利用が無いのはなぜか。

A 高齢者の利用については、高齢者団体としての登録ではなく、成人団体としての登録となっているところが多いため。

Q 事業が終了後、サークルとなると公民館主導ではなくなるのか。

A サークルとなったときは、自分たちの活動となる。

7 その他

(1) 志木市立図書館協議会委員の選出

志木市立図書館協議会委員は、図書館長の諮問に応じ、図書館事業報告を受け、図書館運営への意見交換をはじめ、図書館奉仕について意見を述べていただき、運営に生かすものである。事務局は柳瀬川図書館。

選出は、輪番で総合福祉センター利用者の会選出の委員

(2) 志木市人権教育推進協議会理事の選出

女性、子ども、高齢者、障がい者、同和問題、外国人など人権尊重を目的とした人権同和教育活動を実施、推進する団体である。事務局は生涯学習課。
選出は、輪番で、いろは遊学館利用者の会選出の委員

8 閉会